

ふるさとの歴史
いくつ知ってる？

尾張旭 ふるさと カルタ 解説書

遊びながら尾張旭の
歴史や文化を知ろう！！



はじめに

おわりあさひ

おわりあさひしせい
尾張旭ふるさとカルタは、平成二十二年に、尾張旭市制四十年を記念して作られたカルタです。それぞれの札は、尾張旭の歴史や史跡を題材にしており、カルタで遊びながら尾張旭市の歴史や文化を学ぶことができます。読み札の文章や絵札の絵は、ボランティアガイド「ふるさとガイド旭」のみなさんによるものです。

この解説書では、それぞれの札を紹介し、その中で扱かわれている事柄について、詳しく解説しています。それぞれの解説ページには、地図を添えており、解説に登場するものが、市内のどのあたりにあるか分かるようになっています。また、巻末の「逆引きカルタ解説」を使えば、気になる事柄が、どの札で解説されてくるかも調べることができます。

ぜひ、「尾張旭ふるさとカルタ」を使って、あなたの住むまちの歴史や文化を楽しく学びましょう。



この解説書の見方

読み札

読み札や絵札に登場するものの写真



絵札と描かれて
いるものの説明

解説

読み札の
言葉の説明

一緒にチェック
してみましょう！



尾張旭駅にある
水野又太郎良春
の像



今も残る「新居」という地名の元
となった「新居村」は、室町時代の
1361年に、水野又太郎良春という
人が作ったと言われています。水野
又太郎良春は、この地に人をつれて
きて田畠を作り、多度神社（新居町
西浦）や退養寺（新居町寺田）を建
てました。退養寺の最初の和尚は、
水野又太郎良春の弟だと伝わっ
ています。

また、水野又太郎良春には、「無二」
という別名もありました。これは、
新居に伝わる棒の手の流派「無二流」
の名前の元にもなっています。

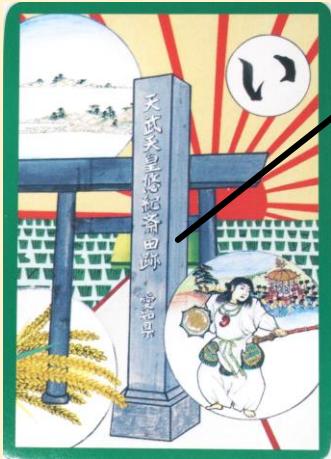
①関連のある札→「う」「し」「ほ」
「る」「れ」

あ

水みず
野のあら
又また
太たろう
郎たろう
良よしはる
春はる



▶水野又太郎良春像
（尾張旭駅前広場）



悠紀斎田跡の
石碑

渋川神社

旧印場村



悠紀斎田とは、大嘗祭という儀式で使うお米を育てる田んぼのことを言います。大嘗祭は、新たな収穫を感謝する儀式で、天皇が即位した年に行われます。

天武天皇が即位した676年に行われた大嘗祭の悠紀斎田は、占いによって、「山田郡（この地方の古い地名）」に決められたことが分かっています。この当時、尾張旭市域は、すべて山田郡の中に含まれていました。印場地区では、この悠紀斎田があったのは、印場の地だと伝えられており、渋川神社（印場元町五丁目）には、大正時代に愛知県によって建てられた「天武天皇悠紀斎田跡」の記念碑も残っています。

①関連のある札→「り」

い

印場には
天武天皇の悠紀斎田

▶天武天皇悠紀斎田碑
(渋川神社境内)



水野又太郎
良春の位牌



退養寺

水野又太郎良春
と一族のものと
伝わる墓



退養寺は、新居町寺田にあるお寺です。旧新居村には、退養寺と洞光院という二つのお寺がありますので、東側にある退養寺は「東寺」とも呼ばれます。退養寺を建てたのは、新居村の祖と言われる水野又太郎良春で、最初の和尚は、彼の弟だと伝わっています。退養寺には、水野又太郎良春の位牌が祀られており、寺の東側にある愛宕山には、水野又太郎良春とその一族のものと伝わるお墓（供養塔）も残っています。

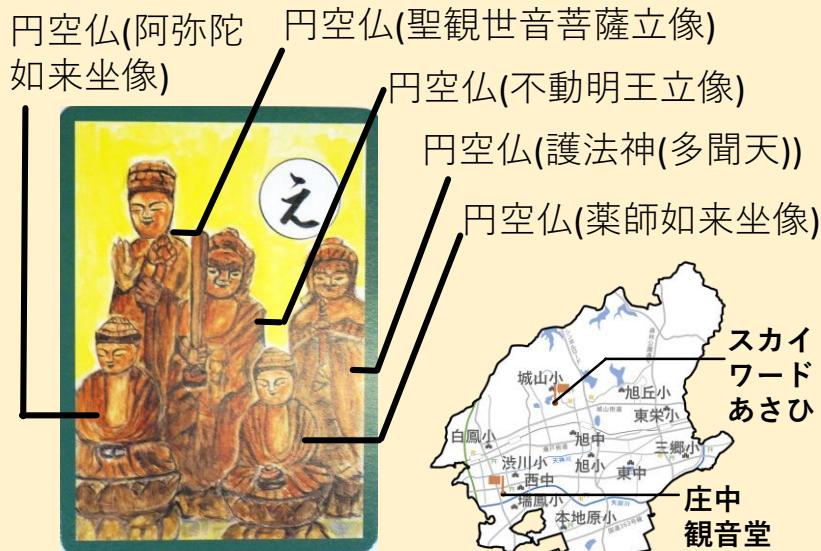
①関連のある札→「あ」

▶水野又太郎良春と一族の墓【伝】

う

良春
裏山に
眠る
退養寺





円空は、江戸時代はじめごろに、日本のあちこちをめぐり仏像を彫った僧で、円空が彫った像のことを円空仏と呼んでいます。円空は、12万体もの仏像を造ったとも言われ、現在は5350体ほどが見つかっています。

円空仏は、円空が活動していた当時の形式的な仏像とは異なる魅力をもち、目元や口元の微笑みが特徴のひとつです。尾張旭市で受け継がれてきた5体の円空仏にも微笑みを見ることがあります。尾張旭市の円空仏は、庄中観音堂（渋川町三丁目）で長い間、守られてきましたが、平成29年に市に寄贈されました。現在は、スカイワードあさひ3階「歴史民俗フロア」でいつでも見学することができます。

※おわす=「いる」「ある」をていねいに言う言葉。

①関連のある札→「へ」

▶円空仏（歴史民俗フロア）



庄中観音堂
円空仏
おわすは

え

南原山の追分に
建つ二体の観音
さま



みなみはらやましゅうかいじょ みなみはらやまちょうあかつち
南原山集会所（南原山町赤土）

みなみがわ みち
の南側に、六つに道が分かれると
ころがあります。このうち、東西に
のびる四本の道は、古くから名古屋
ほうめん せと さなげ とうざい
方面と瀬戸・猿投方面をつなげ
た道です。この場所に向かい合って
た かんのん えど じだい
建つ二体の観音さまは、江戸時代の
1847 年に建てられたもので、道し
みち
るべの役割もかねていました。

ひがしがわ にし
東側にあり西を向いている
じゅういちめんかんのんぞう
十一面観音像には、「右さなげ道
にしがわ ひがし
左せとしなの道」、西側にあり東を
ぱとうかんのんぞう
向いている馬頭観音像には「右大ぞ
ね道左でき町□や道」と刻まれてい
きざ
ます。（□になっているところは読
めないところです。「久や道」「なご
や道」の二説があります。）

※ 追分 = 道がいくつかに分かれる
ところ

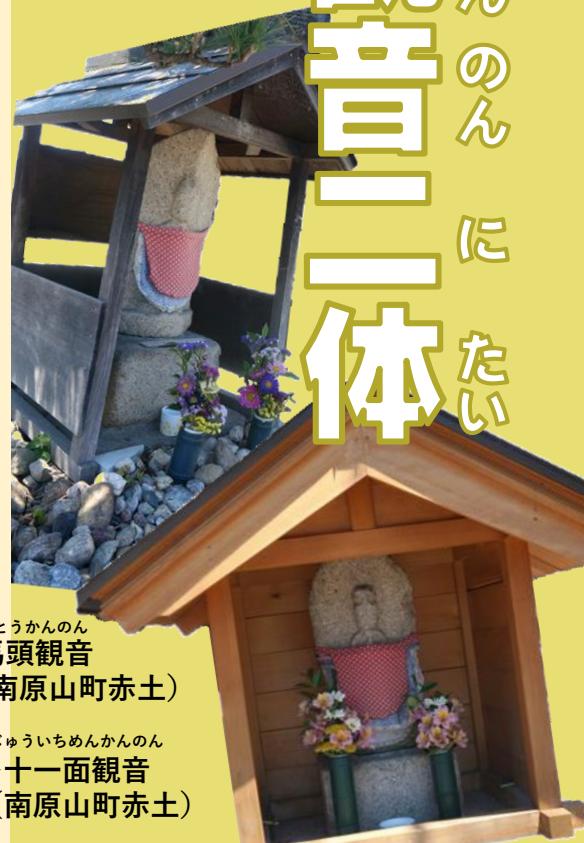
①関連のある札→「ろ」

ばとうかんのん
▲馬頭観音
(南原山町赤土)

じゅういちめんかんのん
►十一面観音
(南原山町赤土)

お

道みち 追おい 分わけ の わけ
観音 かんのん に たい
一 一 体 一 一



狩宿郷倉



お祭りの
道具をしまう
人たち



かりじゅくごうぐら かりじゅくはくさんじんじや
狩宿郷倉は狩宿白山神社（狩宿
町3丁目）の南側に建っている郷倉
みなみがわ た ごうくら
で市の文化財に指定されています。
ごうくら し ぶんかざい してい
郷倉とは、村の人が共同で使う倉庫
きょうどう そうち
のことです。狩宿郷倉は、神社の近く
に建っていることもあって、お祭り
の道具の保管にも使われてきました。
た え どじだい めいじ
建てられたのは江戸時代末から明治
じょき かんが
時代初期だと考えられています。

狩宿郷倉は、尾張地方の特色をも
つ土蔵で、村人たちで作ることがで
きる簡単な造りです。外側には「下見
いたみ したみ
板」が付けられており、火事の時、取
はず たてものほんたい も
り外すことで建物本体を燃えにくく
することができます。平成元年(1989
年)の失火では、一部が燃えましたが、
大きな被害はなく、平成三年に補修
ふくげん ほしゅう
復元することができました。

かりじゅくごうぐら
▶狩宿郷倉

か

かりじゅく むら 狩宿の きょうどう 「郷倉」



五輪塚と石塔



区画整理前の
「西大道町五輪塚」



旭中学校の南東隅(向町二丁目)に、古い石塔が残っています。この石塔は、この近くにあった塚の上に建っていたものです。塚とは、土を盛り上げて作った高まりのことです。

この塚は地元の人たちに「五輪塚」と呼ばれており、近くの「西大道町五輪塚」という地名は、この塚にちなんでつけられたと考えられています。五輪塚があったあたりは、今では「向町二丁目」という地名になっていますが、もともとは「西大道町五輪塚」に含まれていました。

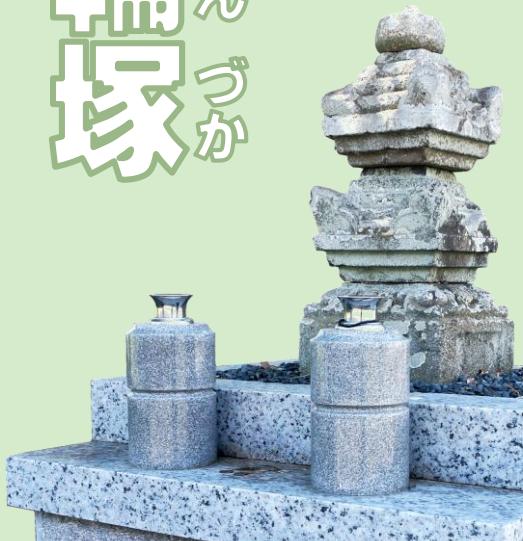
五輪塚の上に建っていた石塔には、「永和四年(1378年)」という字が刻まれています。これは、市内で見つっている年号が刻まれた石造物の中で、最も古いものになります。

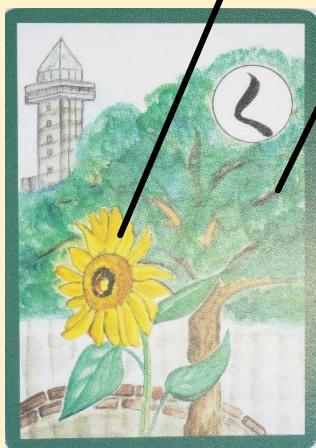
▶五輪塚の石塔



古き年号
ふるねんごう
刻まれし
きざまれし

五輪塚
ごりんづか





ひまわり

くすのき

塙坪公園



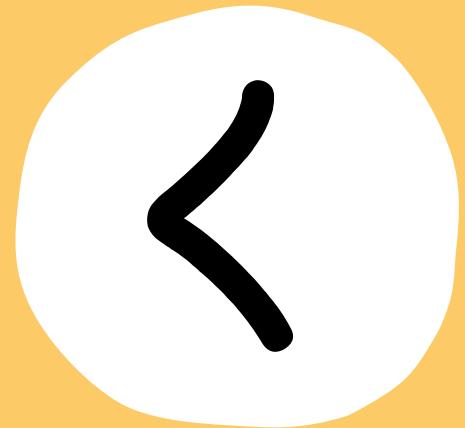
尾張旭市の「市の木」は、1970 年に、
「旭町」が「尾張旭市」になったこ
とを記念して決められました。「くろま
つ」「かしの木」「くすのき」「まきの木」
「さざんか」の 5 つの候補の中から
市民の応募数が最も多かった「くすの
き」が選ばされました。

市内の古いくすのきとしては、「塙坪
公園（渋川町三丁目）」のものが有名
です。このくすのきが植えられた当時、
この場所は、旧渋川小学校の校庭でし
た。この木は、1912 年の卒業生が卒
業記念として校庭に植えたものです。

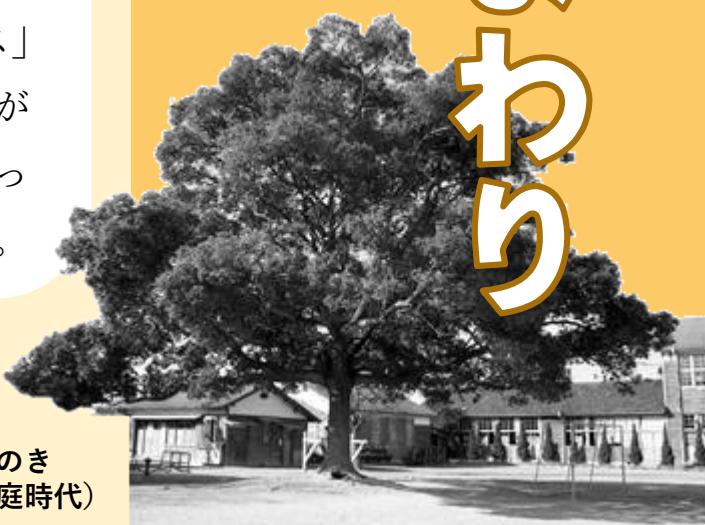
「市の花」は、1980 年に、尾張旭市
になって 10 年を記念して決められま
した。「あやめ」「カンナ」「コスモス」
「つつじ」「ひまわり」の 5 つの候補が
あり、その中から最も応募数の多かつ
た「ひまわり」に決まりました。

①関連のある札→「旭」

▶塙坪公園のくすのき
(旧渋川小学校校庭時代)



市くすの木
市くすの木
市くすの木
市くすの木
市くすの木
ひまわり



打ちはやし



ざい踊り

渋川
神社

直会
神社



「打ちはやし」と「ざい踊り」は尾張旭市の指定文化財です。

「打ちはやし」はお祭りや盆踊りで演奏されるお囃子で、「印場北島地区」「庄中地区」「井田地区」の3つの保存会で受け継がれています。各地区の盆踊りの他、井田八幡神社の「百十灯明祭」や「秋祭り」、福田寺の「九万九千日」、直会神社の「例大祭」などで奉納されます。

「ざい踊り」は、盆踊りの中の女踊りです。竹の筒の先に紅白の紙の房をつけた「ざい」をもって踊ります。ざい踊りは印場地区の「鳳采会」と三郷地区の「みさと会」によって受け継がれています。各地区盆踊りの他、井田八幡神社の「百十灯明祭」や、渋川神社、井田八幡神社の「秋祭り」、直会神社の「例大祭」などで奉納されます。

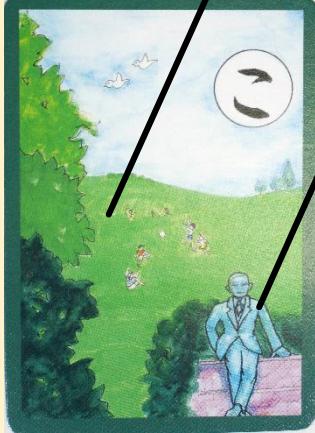
▶打ちはやしと提灯山

け

打ちはやし 稽古して 伝統まもる



森林公园芝生広場



高瀬五助の像



おわりあさひし ほくぶ あいちけんしんりん
尾張旭市の北部には、「愛知県森林
こうえん さいしょ 公園」があります。最初に、このあたり
の森林を生かして公園を作ること
を考へたのは、高瀬五助という愛知
けんりん い こうえん つく 県の林務課長です。彼は、この地域の
森林を守るだけでなく、公園を作り、
ひとびと いこ ば 人々の憩いの場にすることを提案し
ました。このころ、愛知県に「公園」
よ すく と呼べるものはまだ少なく、これは、
かつきてき かんが 画期的な考へでした。そして、1934
にほんはつ 年には、日本初の「森林公園」として
ほんかくてき せいび 本格的に整備されることとなります。
今では、テニスコートや野球場、
ばば うんどうしせつ しょくぶつえん 馬場などの運動施設や植物園、ボーリング場、芝生広場が作られ、豊かな自然
いけ しばふひろば ゆた しせん を感じられる憩いの森として親しまれています。そして、愛知県有林
じむしょ おおあざあらい じつげん 事業所(大字新居)には、公園の実現
じんりょく たかせ ごすけ ぞう た に尽力した高瀬五助の像が建てられています。

▶高瀬五助像 (愛知県有林事務所)

こ

森 しんりん 子 こ
林 こうえん ら うの こ
公 こうえん 園 えん 声 こえ



しんりんこうえん しばふひろば
森林公园 芝生広場



良福寺の山門



良福寺

良福寺は、印場元町一丁目にあるお寺です。最初に建てられたのは平安時代と伝えられています。戦国時代から安土・桃山時代には、土岐氏や織田氏の保護を受けており、織田信長の息子である信雄の書状も残っています。信雄の書状は、尾張旭市の文化財に指定されています。良福寺は、その後、豊臣秀吉の検地などの影響で、一時、荒廃しましたが、江戸時代の1631年に、尾張藩主徳川義直の命で再興されました。良福寺の山門は、そのころ、清州城の城門のひとつを移築したものだと伝えられており、こちらも市の文化財に指定されています。

※山門=お寺の正門のこと。

※信長=織田信長。良福寺の山門がもともと城門のひとつだったと伝えられる清州城は、信長が城主だった時代があります。

りょうふくじさんもん
▶良福寺山門

さ

良福寺に信長しのぶ



城山公園の桜



新居城跡と
看板



城山公園（城山町長池下）は1973

年から整備された公園で、野球場や
弓道場、レストハウス旭城、児童
公園、古民家、彫刻の森、スカイワー
ドあさひなどがあり、桜祭りや市民祭
の会場にもなります。

城山公園のテニスコートと弓道場
のあたりには、かつて新居城というお
城がありました。この城は、室町時代
後期に水野又太郎良春の子孫である
水野雅楽頭宗国によって築かれたもの
と伝えられています。新居城は、市内
で確認されている城の中では、一番大
きなもので、2016年に行われた調査で
は北堀が幅約8m、深さ約5mだとい
うことが分かりました。これは、近く
にある同じくらいの城と比べても大き
い方にあたります。土塁（敵の侵入を
防ぐために土を盛り上げた壁）跡の
一部は、今も残っており、弓道場の
東側で見ることができます。

※ 城址 = 城跡のこと。

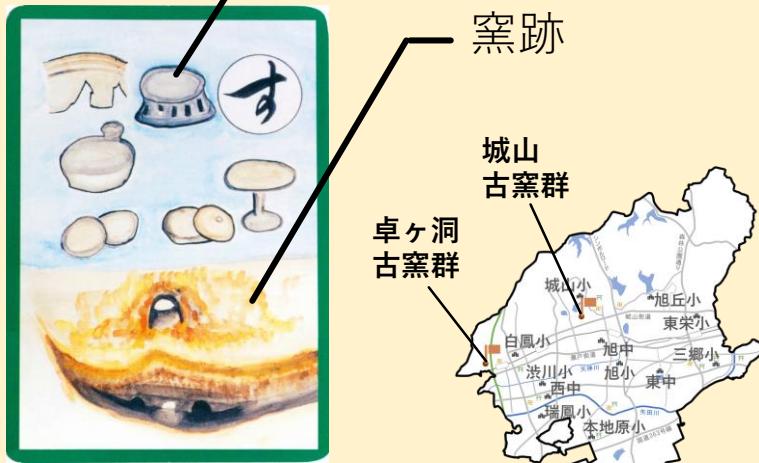
① 関連のある札→「あ」

し

新居城址 | 城山に花と緑の



あらいじょうどりいあと しろやまこうえん
新居城土塁跡（城山公園）



須恵器とは、古墳時代に作られるようになつた焼き物です。それまでの弥生土器などは、地面に掘つた穴の中で焼いていましたが、須恵器は、斜面に築いた窯（窯窓）を使って焼きました。そのため、それまでより高い温度で焼くことができ、より硬い焼き物ができるようになりました。須恵器や窯を作る技術は、400年代に朝鮮半島から伝わつたと考えられています。

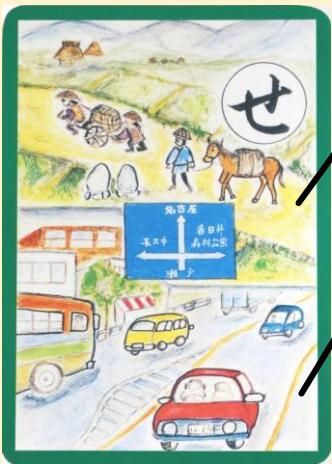
尾張旭市には、城山古窯群（城山町長池下）と卓ヶ洞古窯群（霞ヶ丘町）という須恵器の窯跡があります。城山古窯群は、400年代中頃から後半に使われた窯跡で、須恵器がこの地方に伝わって比較的間もないころの窯跡だと考えられています。

須恵器の窯の構造▶

市内に点在する 須恵器の窯跡



▲城山古窯出土
須恵器



江戸時代の 瀬戸街道 の様子

現在の瀬戸街道の様子

瀬戸街道と呼ばれている「県道61号線」は、尾張旭市のほぼ中央を東西に横断し、名古屋と瀬戸を結んでいます。

この道は、道すじや道幅を変えながら、
古くから使われてきた道です。いつご
ろから使われていたのかは、はっきり
分かりませんが、江戸時代の絵図には
すでに描かれています。

現在の瀬戸街道は、整備されてまつ
すぐで広い道になりましたが、下の図
のように、まだところどころ古い道す
じも残っており、昔の街道の
雰囲気を感じる
ことができます。

今の 瀬戸街道

今も残る 古い瀬戸街道の 道すじ

写真の 地点

① 関連のある札→「ち」「と」

瀬戸街道 かいどう せと 道すじ みち 變われど とう 東西 ざい とう 結ぶ むす ぶ



しょうわ ねんだい きゅうせとかいどう 昭和40年代の旧瀬戸街道 (三郷町栄)

馬の塔の標具をつけた馬



馬の塔は、尾張、西三河、東美濃にわたって江戸時代から行われてきた行事で、市の文化財にも指定されています。豊作のお礼や、雨ごいのために、標具と呼ばれる飾りで馬を飾り、寺社に一日だけ奉納します。尾張旭市では、印場地区北部、印場地区南部が渋川神社、新居地区が多度神社、稻葉地区が一之御前神社、三郷地区が白山神社、山ノ神社、八幡神社に奉納します。普段の村のお祭りで使う標具は、高札と白い御幣をつけたのですが、特別に豊作だった年に、複数の村が集まって大きな寺社に奉納する「合宿」では、その村ごとの特別な標具を使いました。尾張旭市の各地域の標具は、スカイワードあさひの歴史民俗フロアで見ることができます。

※歴史民俗フロアの「標具」は、お祭りで使用する期間は、展示していません。

※ 豊年 = 作物がたくさんとれた年。

そ

馬の塔 空高く

豊年感謝



馬の塔 (多度神社)



ため池
田んぼ



▲御城田池（新居町寺田）

おわりあさひし いなさく 尾張旭市の稻作は、矢田川の近くからはじまったと考えられています。田んぼや畑を作るためには、水が必要だからです。その後、人が増えてくると、川の近く以外にも田畠を増やすために、ため池を作りはじめました。特に、江戸時代は新しい田を作ることが盛んで、たくさんのため池が作されました。尾張旭市には、多い時は40以上のため池がありましたが、1961年に愛知用水が完成してからは、だんだんと必要がなくなり、数が減っていきました。現在も残っている10数個のため池の中には、周辺を整備され、人々の憩いの地として親しまれているものが多くあります。



今も残っているため池▶

①関連のある札→「み」

た

うるおし
ため池は

ひと
田
畠
か

維摩池（新居町今池下）





荷物を運ぶ馬

馬頭観音

名古屋道は、名古屋の出来町から瀬戸を通って信州（今の長野県）までをつないでいました。尾張旭市には、この道の昔からの道すじが今でも残っています。

名古屋道は、江戸時代には「信州中馬街道」とも呼ばされました。中馬というのは、馬の背に荷物を乗せて運ぶ運送業のこと、馬稼ぎなどとも言われます。尾張旭市を通る「瀬戸街道」や「名古屋道」は、名古屋と信州の間で荷物を運ぶ多くの中馬に利用されました。少林寺（稲葉町二丁目）には、「風難災難除 鹿毛栗毛馬 信濃国下伊那郡コマソバ村」と台座に刻まれた馬頭観音があります。これは、旅の安全祈願や、馬の供養のために信州の人が建てたものだと思われます。

今も残る名古屋道
今はなくなった名古屋道

①関連のある札→「せ」「ろ」



少林寺

七

信州
中馬街道

名古屋道

馬稼ぎ

馬頭観音
(少林寺)



つんぼ石
役人



瀬戸街道の「砂川」交差点の近く（城前町四丁目）に、「つんぼ石」と呼ばれる石がありました。今は、少し北に場所を移しています。尾張旭市には、この「つんぼ石」にまつわる民話が残っています。

つんぼ石のおはなし

400年ほど前、名古屋城の石垣に使う石を運ぶ途中、荷車から石がひとつ落ちてしまいました。先を急ぐ侍はそのまま石を置いていくことにし、村人たちには「役人が来ても、この石を置いていったことを絶対に話してはいけないぞ」と言っていました。数日後、役人がこの石について尋ねましたが、村人たちのみんな聞こえないふりをしたので、役人は、「なんとつんぼの多い村だ」と言い、あきらめて帰ってきました。それからこの石は「つんぼ石」と呼ばれています。

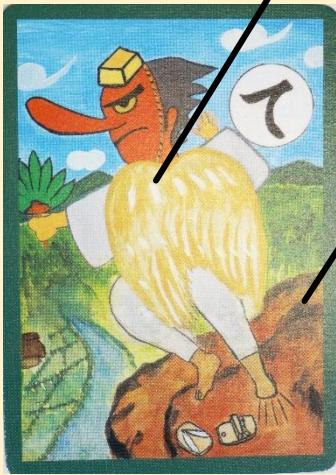
①関連のある札→「と」

▶つんぼ石
すがわこうえんみなみ
(砂川公園南)

つんぼ石

村の知恵





天狗

かかと岩

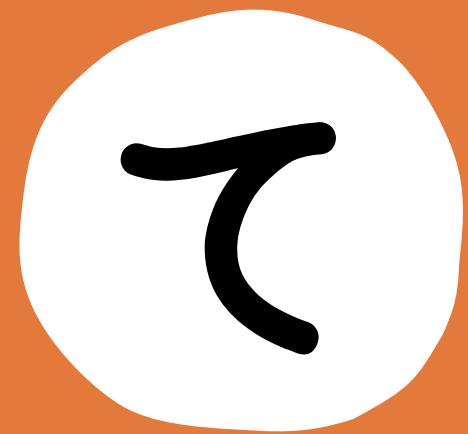


以前、本地ヶ原一帯は、「白山林」と呼ばれる森でした。白山林には天狗がいて、毎日山の上から「なまけ者や泣き虫の子はいないか」と村の方を見下ろしていると言われていました。尾張旭市には、この天狗にまつわる民話が残っています。

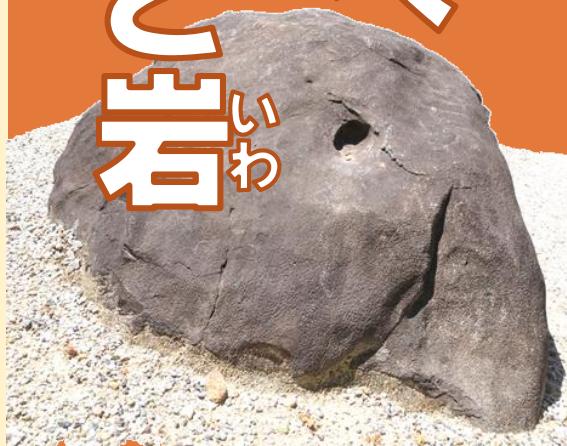
天狗のかかと岩

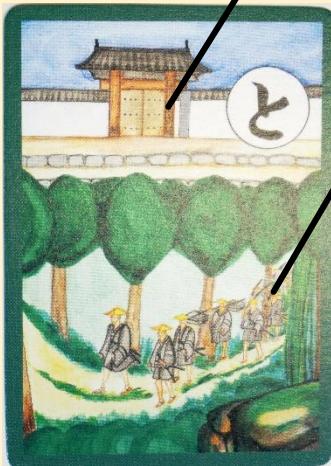
ある日、天狗が猿投山にでかけるために、がけの上の大きな石を踏み台にして、ジャンプしました。すると、その力で岩の真ん中がへこみ、かかとの跡が残りました。そこでこの岩を「天狗のかかと岩」と呼ぶようになりました。この岩は、現在、本地ヶ原神社の境内に置かれています。

▶天狗のかかと岩 (本地ヶ原神社境内)



天狗さん
ジャンプ
かかと
猿投へ
岩





定光寺の源敬公廟 (徳川義直墓)

殿様の行列

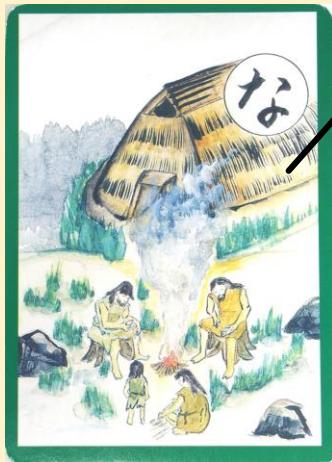
おわりあさひ
殿様街道は、尾張旭
市東印場町から瀬戸市にある定光寺まで続いていた古い道です。定光寺には、尾張藩の初代藩主徳川義直のお墓があり、その後の藩主たちが義直のお墓参りに行くために通ったため、「殿様街道」と呼ばれます。殿様街道は、今の「砂川」交差点の50mほど東で瀬戸街道から分かれました。かつては瀬戸街道と分かれるところ(分岐点)に「つんぼ石」と道標の石がありました(※つんぼ石については「つ」の札)。道標には「右セト志奈の道左定光寺かさわら道」と刻まれています。今、この分岐点は残っていますが、つんぼ石と道標は少し北の「砂川公園」に場所を移して残っています。

- 今も残る殿様街道
- 今はなくなった
殿様街道

① 関連のある札→「せ」「つ」



瀬戸街道と殿様街道の分岐点（昭和後期）
(左: 殿様街道 右: 瀬戸街道)



弥生時代の家
(竪穴住居)



ながさかいせき 長坂遺跡は、長坂町南山で見つ
かかった弥生時代後期の集落（家が
集まっていたところ）跡です。
おわりあさひし 尾張旭市で見つかった遺跡の中で
は、最も古い遺跡で、今から1800
ねんちかまえ 年近く前の家の跡が10数軒見つか
りました。そのうちの1軒分を
ながさかいせきこうえん ほぞん 「長坂遺跡公園」に保存しています。
家の跡からは、壺や、甕、高壇などの土器や、石製の矢じりが見つか
りました。これらの一部は、スカイ
ワードあさひ3階の歴史民俗フロ
アに展示されています。



ながさかいせき
▲長坂遺跡

な

いとな
なが
長坂
さか
い
い
せき
宮み示す



ながさかいせき
▲長坂遺跡
しゅつどだいつきがめ
出土台付甕



ながさかいせきしゅつどつぼ
▲長坂遺跡出土壺

やよい
じだい
弥生時代の



直会神社



西中学校の西に直会神社（渋川町三丁目）があります。地元では「にようらいさん」とか「のうらいさん」とも呼ばれ親しまれています。「直会」とは、お祭りや儀式のあとに、お供え物をいただいたて食べると言います。印場は、天武天皇の悠紀斎田があった場所だと伝えられていて（※悠紀祭田については「い」の札）、直会神社は、この時の直会の儀式と関係があるとも言われます。また、直会神社は、いつの頃からか、デキモノを治してくれると有名になり、市内だけでなく遠方からもたくさんの方がお参りに来ました。名古屋市守山区の森孝新田には、道標とされていた観音様があり「右せと左のうらい」と刻まれています。また、長久手市にあった古い道には「にようらい坂」と呼ばれていたところがあります。道標の目印や道の名前になっていたことからも、直会神社が遠方までよく知られていたことが分かります。

①関連のある札→「い」

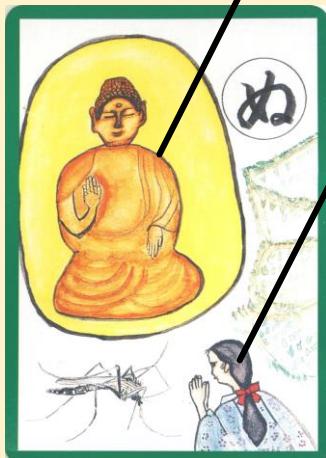
▶直会神社

に

にようらい
なお
直会さん
ふきでもの
詣れば



洞光院のお釈迦さま



祈る娘さん



新居町山の田には、親孝行な娘
さんの話が伝えられています。

山の田の孝女

昔、新居町山の田のあたりに
病気のお母さんと暮らす娘がいました。二人の家の周りは「かんす田」と呼ばれるほど蚊の多いジメジメしたところで、夏にはたくさんの蚊に悩まされていました。娘は、夜眠ることもできないお母さんの看病を毎晩つづけましたが、減ることのない蚊に困り果て、洞光院のお釈迦さまにおすがりしました。すると、あれほどいた蚊がいなくなり、お母さんも元気になったということです。

※かんす=蚊のこと。

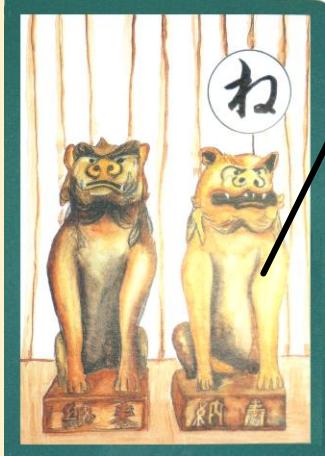
※孝女=親孝行な娘のこと。

①関連のある札→「や」

沼ぬまの田たの孝こうじよの蚊かんすたい散さん



井田八幡神社の陶製狛犬



狛犬は、神社の境内に置かれている石でできたものがよく知られていますが、瀬戸を中心とした東海地方では、陶製の狛犬が数多く見られます。これらは、村や家の安全を願って神社に奉納されたものです。尾張旭市では、井田八幡神社（井田町一丁目）の3対と、狩宿白山神社（狩宿町三丁目）の1対の陶製狛犬が市の指定文化財になっています。どれも江戸時代後期のもので、大きさは、40cm前後です。年号が刻まれている中で一番古いものは、狩宿白山神社の陶製狛犬で、寛延四年（1751年）のものです。



▲井田八幡神社の陶製狛犬（3対）



▲狩宿白山神社の陶製狛犬

陶製狛犬

神社に奉納

ね

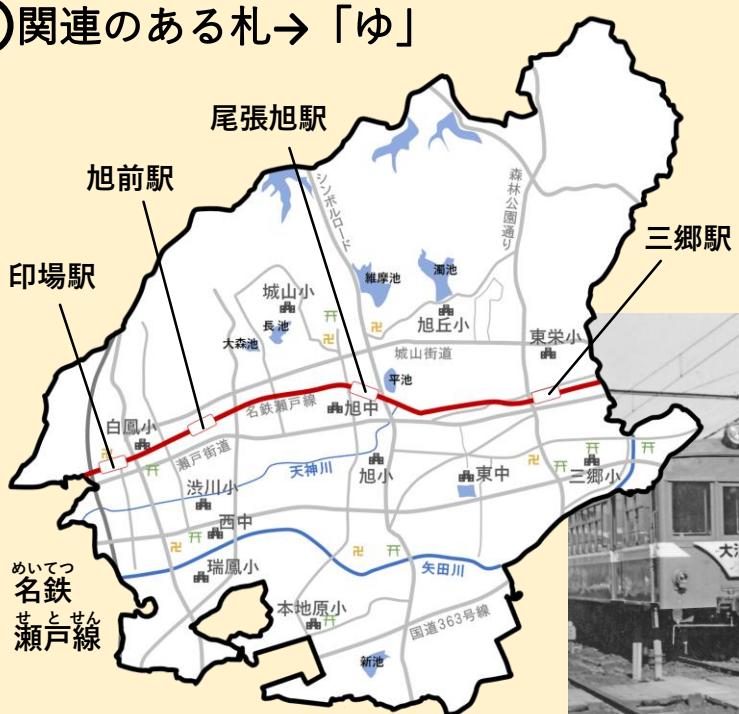


昭和はじめ頃の 瀬戸電の駅

おわりあさひし おうだん
尾張旭市を横断す
めいてつせとせん
る「名鉄瀬戸線」は、
めいじじだい
明治時代にできた
せとじどうてつどう
「瀬戸自動鉄道」か
ら始まります。設立

の四年後から昭和のはじめに名鉄と統合するまで、「瀬戸電気鉄道」という会社が運行していたため、沿線の人たちからは、「瀬戸電」と呼ばれ親しまれてきました。瀬戸電は、瀬戸や尾張旭で作った瀬戸物を名古屋へ運んだり、沿線に作った行楽地に人を運んだりして、この地域の発展を支えました。現在でも、便利な交通手段として親しまれています。

① 関連のある札→「ゆ」



A vertical red banner with white text and a black and white photo of a traditional Japanese building. The text on the banner reads: 乗せて運んで百余年 (乗せて運んで百余年 はこはくよねん) せとでんひやくよねん. Below the banner is a black and white photograph of a traditional Japanese building with a tiled roof and wooden structure.



しょうわこうき さんごうえき 昭和後期の三郷駅



白山林の合戦



白山林の戦いについての看板がある本地ヶ原神社

織田信長が本能寺で討たれた後、後継者の立場をめぐって徳川家康と豊臣秀吉が争った戦いが「小牧・長久手の戦い」です。その名の通り、主な戦いの場は、小牧と長久手ですが、その周辺でも小さな戦いが行われました。白山林と呼ばれた、尾張旭市南部の高台もそんな局地戦が行われた場所のひとつです。長久手へと向かっていた豊臣秀吉方の三好秀次軍が、白山林で朝食をとっていたところ、徳川家康・織田信雄連合軍が急襲し、家康側が勝利したというもので「白山林の戦い」と呼ばれています。

現在、本地ヶ原に白山林の面影はほとんど残っていませんが、「南新町白山」という地名や、「白山公園（北本地ヶ原町四丁目）」、「白山道」に白山の名前が残っています。

は

小牧長久手合戦の古戦場





機織りをする
娘さん



新居の愛宕山の近くには、悲しい
人柱の伝説が残っています。

機織池

昔、新居の愛宕山の下にあった池の堤防が、何度も壊れ村人たちを困らせしていました。ある日、占師が来て、「五月一日に機織り道具をもって池のほとりを通る女を池へ沈めるとよい」と告げました。その日、お告げのとおりに娘が通りかかったので、村人は娘を池へ投げ込みました。それから池の堤防は切れなくなりましたが、五月一日に機織りをする人が次々と亡くなりました。たたりだと考えた村人は、お堂を建てて娘さんを丁寧に祀りました。そして、この村では、五月一日に機織りをしてはいけないと言うようになりました。今、この池とお堂はなくなり、どこにあったのかも分かりません。

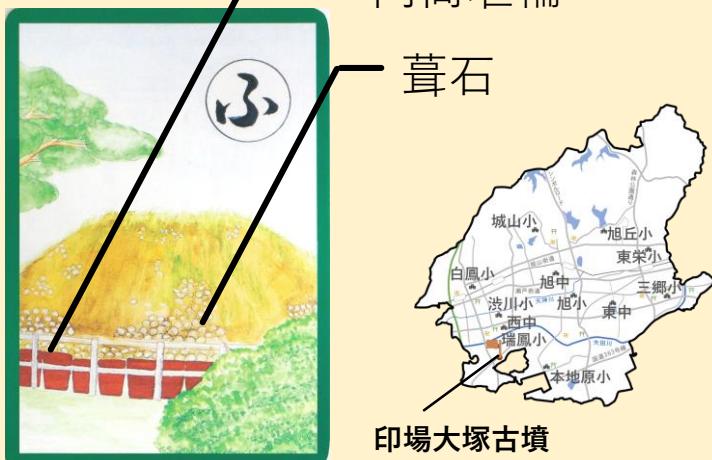
※はたご = 機織りの道具

ひ

悲かな 人柱の 伝説

機織池





印場大塚古墳（大塚町一丁目）は、400年代後半ごろの円墳です。1973年に調査が行われ、葺石と円筒埴輪が見つかりました。葺石とは、古墳の表面に並べられるこぶし大の石のことで、円筒埴輪は、古墳の周りに並べられる丸い筒の形をした埴輪です。

印場大塚古墳の円筒埴輪は、底の部分が並んだ状態のまま見つかりました。調査の時点で墳丘（古墳の高まり）の形はすでに崩れてしまっていましたが、円筒埴輪が並んで見つかったおかげで、古墳の直径が約16mだったと推測することができました。

現在、印場大塚古墳は、「印場大塚古

墳公園」に復元されています。

▲発掘調査当時の写真（葺石と円筒埴輪）

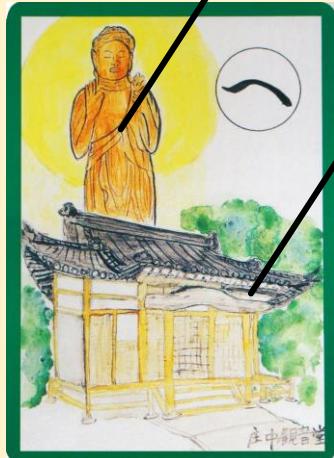
ふ

大塚古墳
葺石と埴輪が並ぶ



印場大塚古墳

木造聖觀世音菩薩立像



庄中觀音堂



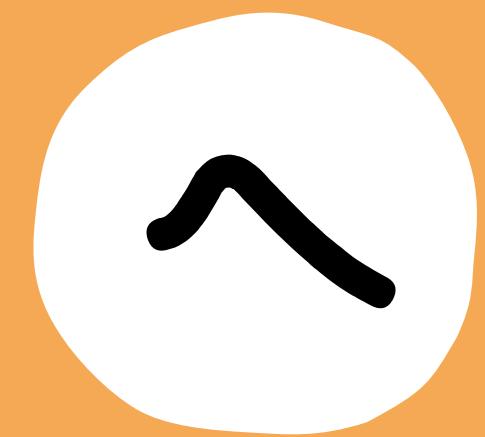
庄中觀音堂（渋川町三丁目）の本尊である「木造聖觀世音菩薩立像」は、市の指定文化財です。この像は、秘仏なので、普段は見ることができません。

この像が造られたのは、平安時代後期だと考えられています。このあたりの言い伝えによると、この像は、昔、洪水の時、池に流れ着いたもので、気の毒に思った村人たちがお堂を建てて祀ったそうです。

庄中觀音堂には、この像の他に、円空仏が5体祀られていました。円空は、自分が造った像を觀音堂に納めるだけでなく、本尊の両腕と足、台座の修理も行っています。

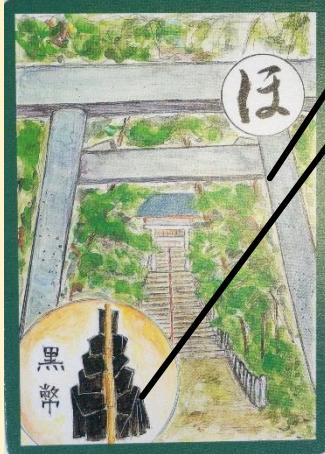
①関連のある札→「え」

►木造聖觀世音菩薩立像（庄中觀音堂）



秘ひ平へい
仏ぶつ安あん
時代じ
庄中なか
觀かん
音のん
像ぞう
つく
られた





多度神社の鳥居
黒幣



新居町西浦にある多度神社は、新居の祖と言われる水野又太郎良春が、多度大社（三重県桑名市）から勧請したものと伝わります。多度大社は、雨を降らせる神様として有名で、多度神社でも雨乞いの祈願が行われました。最近では、1994年の水不足の際、雨乞いの祈願を行い、多度大社から、黒幣をいただきてきました。黒幣とは黒い御幣（細長い紙の束を串に挟んだもの）のことです。この地方では、普段の祈願では叶わず、どうしても雨が降らない時は、多度大社から黒幣をもらってくる風習がありました。黒幣は、持ち帰る途中で地面に下ろすとそこに雨が降ると言われているため、地面につければ持ち帰られなければなりませんでした。

また、多度神社の周りには、シイや山桜の大木、ヒノキなどが茂る豊かな森

があります。この森は、市の保存樹林に指定されています。

◀多度神社の拝殿



①関連のある札→「あ」

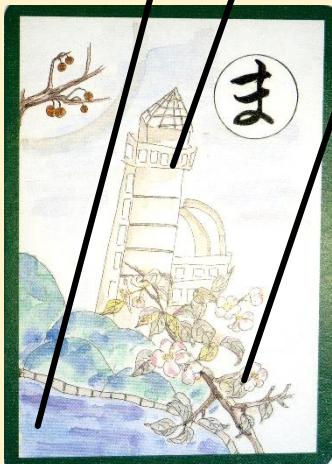
ほ

多度神社と雨乞いの宮



たどじんじゃ
多度神社の鳥居

長池 スカイワードあさひ



マメナシ



マメナシとアイナシは、ため池の近くなどの水が湧きでる場所に育つ貴重な植物です。城山町の長池にはマメナシとアイナシの自生地があり、市の文化財に指定されています。

マメナシは、環境省や県が、絶滅の恐れがある生物をまとめたレッドリストというリストにも載っている絶滅危惧種で、日本では、東海地方にしか自生していません。アイナシは、マメナシとナシの雑種で、こちらも珍しい植物です。

マメナシとアイナシはいずれも4月ごろに白い花を咲かせ、秋に実をつけます。マメナシの実は直径1 cm前後、アイナシの実は、直径2～3 cmくらいの大きさです。



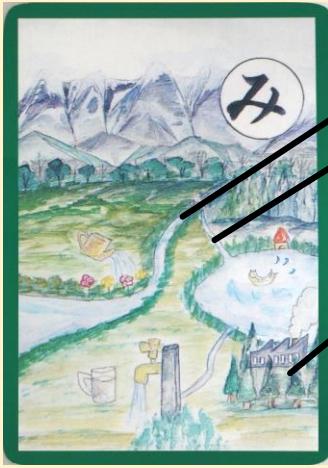
▲マメナシの花

ま

マ
メ
ナ
シ
ア
イ
ナ
シ
自
生
の
長
池
な
が
い
け



ながいけ
長池のアイナシマメナシ自生地
はせいち



木曽川
愛知用水

工業用水や生活
用水として使わ
れている様子

尾張東部丘陵から知多半島にかけての一帯は、大きな川がなく、長い間水不足に悩んできました。1947年には大干ばつが起こり、これをきっかけにして久野庄太郎という人を中心に用水を引くための運動が始まりました。

1955年には、事業が開始され、1961年には、木曽川から知多半島まで水を供給する愛知用水が完成しました。

尾張旭市内では、市の東部を北から南に愛知用水の幹線水路が通っています。完成した当時は、農業の発展にも大きな役割を果たしましたが、現在は、主に工業用や生活用の水として、利用されています。

愛知用水(地表に出ている部分)

愛知用水(地面の下を通っている部分)

①関連のある札→「た」

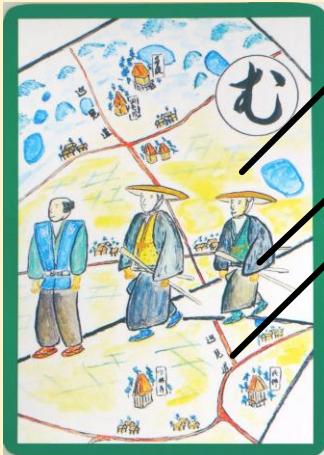
み

木曽の水

豊か愛知用水



おおくてだい かいすいろ ひがしおおくでちょう
大久手第2開水路 (東大久手町)



村絵図

巡見使

巡見道

村絵図とは、江戸時代に村の様子を描いた絵図のことです。村絵図には、お寺や神社、集落と共に道や川も描かれています。

尾張旭市に残る村絵図に描かれている道のひとつに「巡見道」があります。巡見道は、江戸時代に「巡見使」という人たちが通った道です。巡見使とは、幕府から地方に派遣された人たちで、地方の村々を見て回り、農業や、政治、領主の人柄などを調べました。尾張旭市を通る巡見道は、市のほぼ中央を南北に通っています。古い道すじはほとんどなくなっていますが、一之御前神社（稲葉町三丁目）の南側と市役所（東大道町原田）の西側では、今でもその名残を見ることができます。

—— じゅんけんみち すいてい
巡見道（推定）

む



柴田勝家の馬印



文化会館前の
毛受勝助の像



文化会館

毛受勝助家照は、戦国時代の武将で、織田信長の家臣、柴田勝家に仕えました。一説によると、毛受勝助は、尾張旭市の稻葉出身だと言われます。

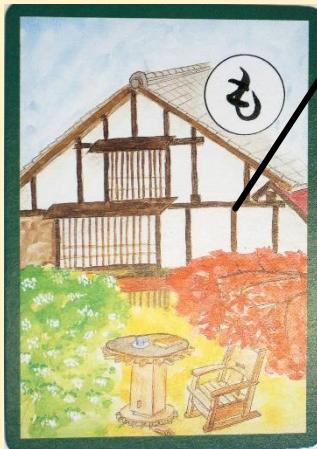
柴田勝家は、賤ヶ岳の戦いで豊臣秀吉に敗れます。毛受勝助は、討ち死にを覚悟した勝家の身代わりを申し出て、勝家が本拠地まで帰る時間をかせぎ奮戦するも、討ち死にしたと伝えられます。毛受勝助が亡くなった滋賀県長浜市には、毛受勝助と兄の墓が作られ、地元の人たちによって今でも守られています。尾張旭市には、文化会館（東大道町山の内）の前に毛受勝助の銅像が建てられています。

毛受勝助像（文化会館前）

め

めんじょうしおうすけ
毛受勝助





どうだん亭



「どうだん亭」の母屋は、1942年
に岐阜県飛騨地方の合掌造り民家
を移築して、再構築した近代数寄屋
建築です。数寄屋とは、茶道で使う
建物のことです。どうだん亭の元に
なった合掌造りの民家は、江戸時代
の1723年に建てられたと伝えられ
ており、当時の梁や柱をどうだん亭
でも見ることができます。特に吹き
抜けになっている洋間では、元々の
民家に使われていた太い梁を組み合
わせて見せ場としており、当時の
建材がよく分かります。

どうだん亭は、1997年に尾張旭市
に寄贈され、2008年には国の登録有
形文化財となりました。現在は、貸館
として利用されていますが、春・秋・
ひな祭りの年3回の一般公開では、
内部を無料で見学できます。

どうだん亭

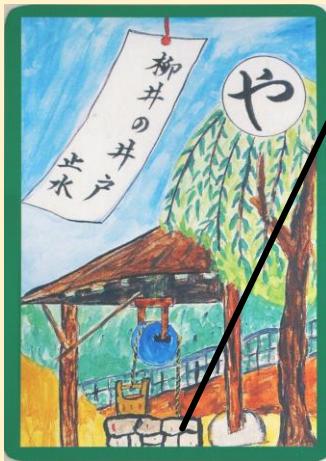


も

紅葉に
どうだん亭

飛騨の
飛騨の

風吹く
風吹く



柳井の井戸



新居町山の田の洞光院は、1558年に新居村の村人たちによって建てられたと伝わります。新居村には退養寺と洞光院の二つのお寺があるので、西側の洞光院は西寺とも呼ばれました。

洞光院には、江戸時代のはじめごろ、「止水」というお坊さんがとどまりました。止水は、和歌をたしなみ「新居八景」などの和歌を残しています。また、止水は、水汲みの大変さに悩む新居村の村人のために井戸を掘ったとも伝えられています。止水の井戸は、そばにあった柳の木にちなんで「柳井の井」と呼ばれました。この井戸は、今でも洞光院の境内で見ることができます。

①関連のある札→「ぬ」

洞光院 本堂 ▶

や

止水 ゆかりの 柳井の井 洞光院





新居の大弘法



退養寺(新居町寺田)の東側にある高台は、愛宕山と呼ばれてきました。頂上近くに愛宕社が祀られていることからそう呼ばれるのだと思われます。愛宕山には、尾張三大弘法のひとつ、「厄除弘法大師」が建っています。この像は、1930年にコンクリート像で有名な浅野祥雲という人によって造られました。新居の大弘法は、尾張三大弘法の第三番で、第一番は小幡緑地の「御花弘法」、第二番は印場の良福寺境内に建つ「開運弘法」です。昭和のはじめごろは、名鉄電車(初期は瀬戸電気鉄道)によって「尾張三大弘法めぐり」が実施され大変なにぎわいを見せたそうです。現在、新居の大弘法は、「奉贊会」の方々によって守られ、4月には弘法まつりも行われています。

①関連のある札→「う」「さ」

新居の大弘法(尾張三大弘法 厄除弘法大師)▶

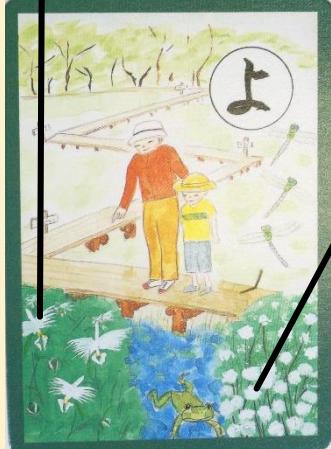


悠然と
愛宕の山に

大弘法



サギソウ



シラタマ
ホシクサ



吉賀池
湿地

あさひがおかちょうにごりいけ
旭ヶ丘町濁池にある吉賀池湿地

よしがいけしつち
は、市の天然記念物に指定されています。吉賀池湿地は地面の表面が酸性土壤になっています。そのため、普段私たちが目に見る植物は育ちにくく、酸性土壤に適した珍しい湿地植物が育ちます。その中には、シラタマホシクサやサギソウ、ミズギクなどの絶滅危惧種も含まれています。シラタマホシクサは東海地方の固有種でもあり、主に愛知県と岐阜県にしか自生していない植物です。

吉賀池湿地は湿地保護のため、普段は中に入ることできませんが、春から秋に行われる一般公開の日には中を見学することができます。

▶サギソウ



▶シラタマホシクサ

よ

よしがいけ
吉賀池
しつち
シラタマホシクサ
湿地に群れ咲く



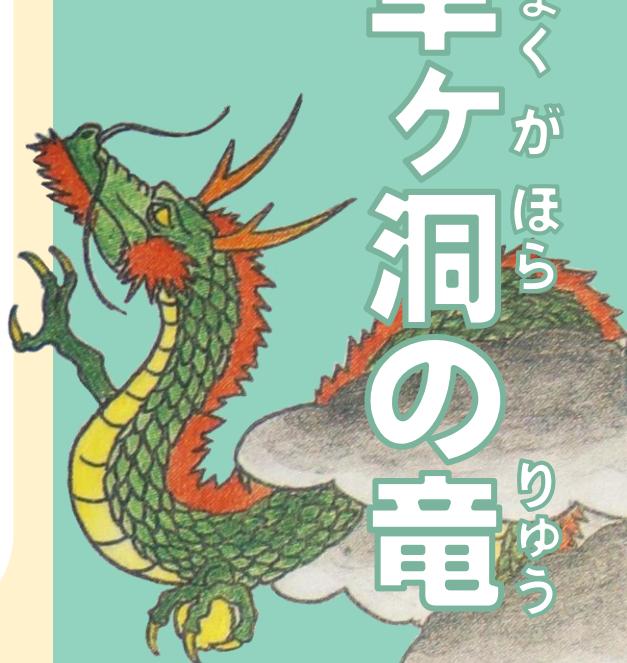
卓ヶ洞の竜



現在の桜ヶ丘町・霞ヶ丘町のあたりは、以前、卓ヶ洞と呼ばれています。水不足に悩まされることの多かったこの地域には、雨を降らした竜のお話しが残っています。

卓ヶ洞の竜

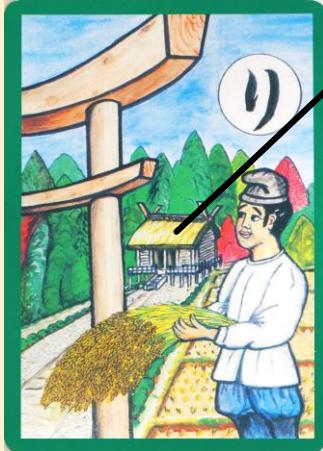
ある時、何日も続いた日照りを卓ヶ洞の竜のせいだと考えた村人たちは、竜を洞窟に閉じこめてしましました。それをかわいそうに思った少年は、こっそりと竜のいる洞窟に水をさしいれてあげました。すると竜は、力を取り戻して洞窟を抜け出し、少年がくれた水のお返しに、雨を降らせました。その雨は、田畠を潤し、村は助かることができたそうです。



雷
雨
呼び
出し
恩
返
し

卓
ヶ
洞
の
竜

ら



渋川神社



いんばもとちょうごちょうめ しぶかわじんじや 印場元町五丁目の渋川神社は、
おわりあさひし ゆいいつ しきないしや 尾張旭市で唯一の式内社です。式内
社とは、平安時代の905年から編集
された「延喜式」という法律書の中の、
「神名帳」に名前が載っている神社
のことを言います。

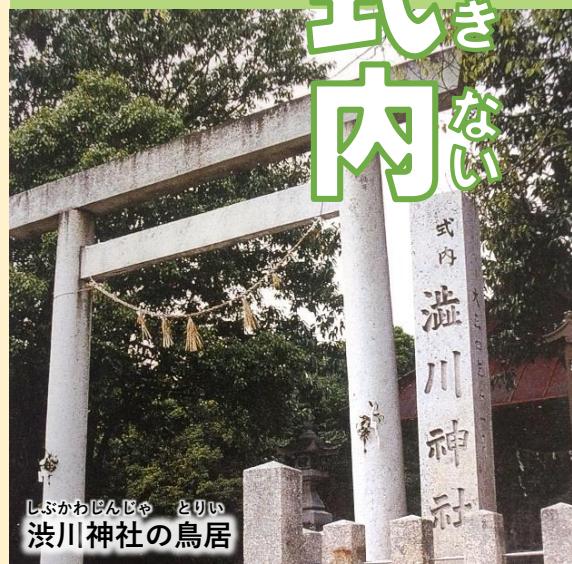
渋川神社は、676年の天武天皇の悠
紀斎田に関係があると伝わっており、
境内には、「天武天皇悠紀斎田跡」の
石碑も建てられています。(※悠紀斎田
については「い」の札) また、渋川神社の
近くには、「渋川遺跡(印場元町三丁
目)」という奈良時代の遺跡があり、
建物の跡と一緒に、硯や文字の書か
れた土器も見つかっています。渋川
神社の周辺は、古くから栄えていた
地域のひとつと言えます。

※律令=古代の法律のこと。延喜式は、
「養老律令」という法典の細かい
決まりなどをまとめたものです。

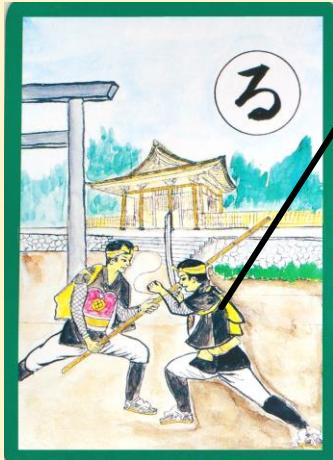
①関連のある札→「い」

り

律令の 渋川神社 延喜式内



渋川神社の鳥居



ぼう て おわりちほう にしみかわちほう
棒の手は、尾張地方、西三河地方で
広く行われてきた民俗芸能です。二
人から五人が型に従って演技し、
ごこくほうじょう ねが じんじゃ てら
五穀豊穣を願って神社やお寺に
ほうのう おわりあさひし
奉納します。尾張旭市には、5つの
りゅうは のこ
流派が残っており、それぞれの
ほぞんかい けいしょ
保存会で継承されています。

各5流派は秋祭りなどで、それぞ
れの地区の神社に奉納します。新居
ちく むにりゅう たどじんじや いんばちく
地区の無二流は多度神社、印場地区
ほくぶ とうぐんりゅう じきしんがりゅう
北部の東軍流と直心我流、印場地区
なんぶ じきしむそうとうぐんりゅう しぶかわじんじや
南部の直師夢想東軍流は渋川神社、
いなばちく けんとうりゅう いちのごぜんじんじや
稻葉地区の検藤流は一之御前神社
に、それぞれ奉納されます。



受け継ぐ ルーツ違えど 旭の棒の手 五流派



上左：無二流（多度神社）、中：東軍流（渋川神社）、右：直心我流（渋川神社）

下左：直師夢想東軍流（渋川神社）、右：検藤流（一之御前神社）





子守勝手明神

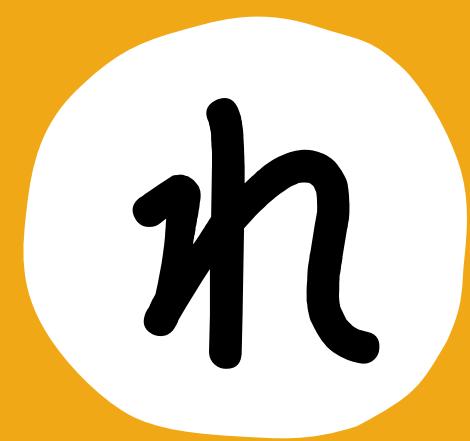


新居を作った水野又太郎良春は、奈良県の吉野からやってきたと伝えられています。良春は、奈良からこの地方にやってきて、すぐに新居を拓いたのではなく、まず志段味（名古屋市守山区）に住みます。志段味の「勝手明神（勝手社）」は、良春が、奈良の「勝手神社」と「水分神社」を勧請して建てたものだと言われています。その後、新居を拓いた良春は、屋敷に小さなお社を作りました。これが、新居町西浦にあった「子守勝手明神」だと伝えられています。志段味の勝手明神と同じく「勝手神社」と「水分神社」を勧請したものと言われます。子守勝手明神は「勝手の明神さん」として親しまれ、子宝子育ての神として信仰されました。また、いつの頃からか「勝手なお願い」をきいてくださる神様としても知られています。

子守勝手明神の社は、2018年に多度神社境内（新居町西浦）に移されました。

※**靈験**=**御利益**。神仏が**祈願**に応じて起こす**不思議な力や現象のこと**

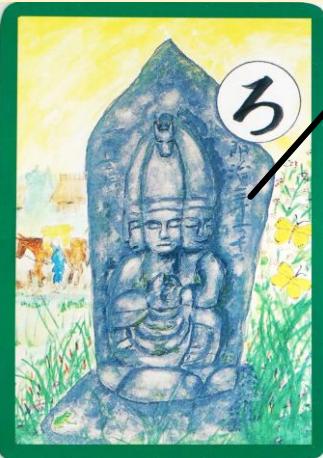
①関連のある札→「う」



れいげん 子守勝手の明神詣り



こもりかってみょうじん た どじんじゃけいだい 子守勝手明神 (多度神社境内)



馬頭観音



おわりあさひし
尾張旭市の古い道の傍には、石でで
きた仏像があちこちに建っていました。
このような石仏たちは、当時の人たち
がどんな願いをもって暮らしていたの
か知る手がかりになります。

尾張旭市の道の傍に建っていた石仏
には「馬頭観音」が最も多く見られます。
馬頭観音とは、馬の顔が頭について
た観音様のことです。馬頭観音が建つ
ていた道は、馬を使って荷物を運ぶ
運送業を営む人たちが、よく通る道
であることが多いです。このような馬
頭観音は、馬を使って働く人たちが、
馬の供養や旅の安全を願って道の傍に
建てたのだと考えられています。

今では、古い道がなくなったり、整備
されたりしていますが、道の傍にあつ
た石仏の多くは、近くの寺の境内など
に移動して、今でもその姿を見ることができます。

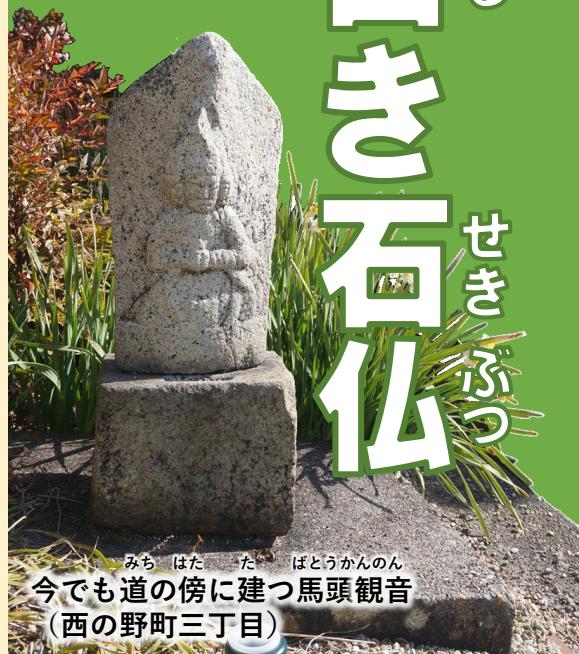
※路傍 = みちばた。道の端。

①関連のある札→「お」「せ」「ち」

ろ

※
路傍なる
昔を語る
むかし
かた
ろぼう

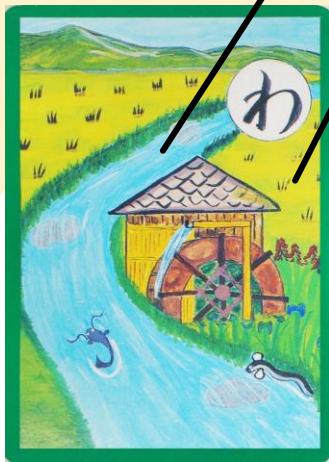
ふる
古き石仏
せきぶつ



みち はた た ばとうかんのん
今でも道の傍に建つ馬頭観音
(西の野町三丁目)

矢田川

田んぼ



矢田川は、瀬戸市
東部の森林地帯を
水源とし、瀬戸川と
合流して尾張旭市

南部を流れる一級河川です。矢田川
は、尾張旭市を出た後、名古屋市内で
香流川、庄内川と合流し、伊勢湾へ
と向かいます。

尾張旭市の稲作は、弥生時代に、
矢田川沿いから始まったと考えら
れています。矢田川沿いには、古くか
ら人が住んでいた跡（集落跡）や、
多数の古墳も見つかっています。尾
張旭市の歴史は、矢田川と共に発展
してきたとも言うことができるでし
ょう。現在では、河原に「矢田川散
歩道」が整備されるなど、
人々の憩いの地と
しても親しま
れています。

矢田川散歩道

①関連のある札
→「な」

わ
矢田の流れに育まれ



矢田川と矢田川散歩道



尾張旭市の
イメージ
キャラクター
「あさぴー」

おわりあさひしいき 尾張旭市域は、江戸時代まで新居
むら いんばむら いなばむら いだむら せとがわ
村・印場村・稲葉村・井田村・瀬戸川
むら かりじゅくむら
村・狩宿村という6つの村でした。
めいじ 明治11年には、狩宿村・瀬戸川村・
井田村が合併して三郷村になり、明
じ 治22年には、三郷村・稲葉村と、今
むら みの いけむら やしろむら
村・美濃ノ池村が合併して八白村と
なります(今・美濃ノ池は大正14年に瀬戸市へ編入)。そして、明治39年
には、印場村・新居村・八白村が合併
あさひむら たんじょう して旭村が誕生しました。昭和23
年には、旭町となり、昭和45年には尾張旭市となります。平成22年
(2010年)には、市のイメージキャラ
クター「あさぴー」が誕生しています。



▲旭町役場



▲尾張旭市役所(現・南庁舎)

►「あさぴー」と「このは」



あさひむら
旭村から旭町
あさひちょう
あさひし
未来
みらい
尾張旭市



逆引き カルタ解説

あ行

愛知用水
新居城
新居の大弘法
井田八幡神社
一之御前神社
印場大塚古墳
打ちはやし
馬の塔
円空仏
追分の石仏
織田信雄書状
大弘法

た,み
し
ゅ
け,そ,ね
そ,る
ふ
け
そ
え
お
さ
ゆ

か行

狩宿郷倉
狩宿白山神社
くすのき
子守勝手明神
五輪塚

か
か,
く
れ
き

さ行

ざい踊り
渋川遺跡
渋川神社
市の木・市の花
巡見道
聖観世音菩薩立像
庄中観音堂
卓ヶ洞古窯
卓ヶ洞の竜
城山公園
城山古窯
森林公園
須恵器
瀬戸街道
瀬戸電

け
り
い
く
む
へ
え,
す
ら
し
す
こ
す
せ,
ち,
と
の,ゆ

ため池
中馬街道
つんぼ石
天狗のかかと岩
洞光院
陶製狛犬
どうだん亭
殿様街道

な行

直会神社
長坂遺跡
名古屋道
長池
ようらいさん

は行

白山林の戦い
機織池
馬頭観音
ひまわり
福田寺
棒の手

ま行

マメナシ
水野又太郎良春
水野又太郎良春の墓
名鉄瀬戸線
毛受勝助家照

や行

矢田川
柳井の井
山神社
山の田の孝女
悠紀斎田跡
吉賀池湿地

ら行

良福寺
良福寺山門
歴史民俗フロア

たち
つ,
て
ぬ,
や
ね
も
と

け,
に
な
ち
た,
ま
に

は
ひ
お,
ち,
ろ
く
け
る

ま
あ,
う
の,
ゆ
め

わ
や
そ
ぬ
い,
に,
り
よ

さ,
ゆ
さ
え,
そ,
な

た行

退養寺
高瀬五助
多度神社

あ,
う,
ゆ
こ
あ,
そ,
ほ,
る,
れ

参考文献

愛知県環境部「レッドリストあいち2020」愛知県環境部、2020年
愛知県森林公園協議会「愛知県森林公園案内」愛知県森林公園協議会、1957年

愛知県森林公園事務所「森林公園概要 昭和45年版」愛知県森林公園事務所、1971年

20周年記念誌編集委員会「20年のあゆみ」森林公園協会、1975年

愛知県尾張県有林事務所「森林公園 創設50周年記念」愛知県、1985年

愛知県史編さん委員会「愛知県史別編民俗2尾張」愛知県、2009年

愛知県史編さん委員会「愛知県史別編文化財3彫刻」愛知県、2013年

愛知県史編さん委員会「愛知県史別編窯業1古代猿投系」愛知県、2015年

尾張旭市教育委員会「印場大塚古墳」尾張旭市教育委員会、1977年

尾張旭市教育委員会「尾張旭の城館址」尾張旭市教育委員会、1985年

尾張旭市教育委員会「尾張旭の地名」尾張旭市教育委員会、1989年

尾張旭市教育委員会「尾張旭の道」尾張旭市教育委員会、1992年

尾張旭市教育委員会「渋川城館跡・渋川遺跡」尾張旭市教育委員会、1994年

尾張旭市教育委員会「長坂遺跡」尾張旭市教育委員会、1998年

尾張旭市教育委員会「尾張旭市の塚」尾張旭市教育委員会、2000年

尾張旭市誌編さん委員会「尾張旭市誌本文編」尾張旭市、1971年

尾張旭市誌編さん委員会「尾張旭市誌資料編」尾張旭市、1971年

尾張旭市誌編さん委員会「尾張旭市誌文化財編」尾張旭市、1980年

尾張旭市誌編さん委員会「尾張旭市誌現代史編」尾張旭市、2011年

尾張旭市誌編さん委員会「尾張旭市誌現代史資料編」尾張旭市、2012年

尾張旭市都市整備課「矢田川散歩道散策マップ」尾張旭市都市整備課
環境省「レッドリスト2019」環境省、2019年

長久手町史編さん委員会「長久手町史資料編四民俗・言語」長久手町役場、1990年

独立行政法人水資源機構愛知用水総合管理所ホームページ

ふるさとガイド旭「旭あれこれひまわり特別号」ふるさとガイド旭、2011年

尾張旭 ふるさとカルタ

尾張旭の歴史や文化をカルタを使って覚えよう！



1セット1000円

尾張旭駅北口！

グリーンシティビル1階
「尾張旭まち案内」

尾張旭市役所
文化スポーツ課

にて、
販売中！

お問い合わせ先

尾張旭市教育委員会 文化スポーツ課

〒488-8666

尾張旭市東大道町原田2600-1

尾張旭市役所 北庁舎2階

TEL : 0561-53-1144

尾張旭ふるさとカルタ解説書

編集・発行 尾張旭市教育委員会

文化スポーツ課

発行年 令和2年

